

IV-21

仙台市の大型観光バスの駐車場の現状と問題点

東北大学工学部 正員 ○小林真勝

東北大学工学部 正員 須田 憲

1. はじめに

仙台市は平成元年に全国で第11番目の政令都市となり、東北の拠点都市として重視されている。仙台市に訪れる人達の目的も多岐に亘るが、中でも観光客は観光地松島や蔵王より多い。（図-1）特に大河ドラマ「伊達政宗」が放映された昭和62年の観光客の入り込み数は

1,150万人にも達した。観光客は翌年から平常に戻ったが増加の傾向が続いており、大型観光バスが全シーズンにわたり青葉城址周辺の路上に一時駐車しているのを見かける様になり、問題が生じ

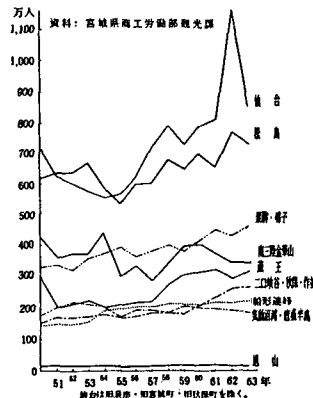


図-1 宮城県年次別観光客の推移

つつある。本研究はそこに駐車する目的を明らかにし、その社会的要因を探るものである。

2. 路上一時駐車場の現状

まず大型観光バスの路上一時駐車場の現状を把握するために旧市内を視察し、バスの一時駐車場の多い青葉城址周辺と東北大（川内・工学部地区）・仙台駅前前の路上駐車場の調査を実施した。特に青葉城址周辺地域に駐車している大型バスの台数は、平成 2年1/10～2/8（毎週木／AM11.00 頃）までの間に、平均

1.2台の結果を得た。この値は観光のオフシーズンの値であり、活動期には毎日数十台の利用がある。これらの地域に駐車している目的について、バスの運転手にヒヤリング調査した結果、次の3つに分類された。

- 目的の観光地の駐車場が満車のため駐車しているケース。
- 市内の施設（公共施設・ホテル・イベントホール）等の利用者の送迎で待機する駐車場のケース。

c)観光の旅行形態が変わり、小グループ別に仙台市内を自由行動させるため、目的地に近い場所で乗降させ一定時間時間調整しているケース。

3. 市内バス駐車場の現状

(1)市内の観光施設の現状

a)のケースは観光地の駐車スペースが少ないためと考えられるが、市内の主な観光施設の駐車可能台数を調査した結果を表-1に示す。青葉城址周辺地域の施設を除くと、バス

表-1 観光施設の駐車可能台数

場 所	バスP	普通車P	料金	備考
青葉城址	30	100	有	100
霊廟瑞鳳殿	6	15	有	13
市動物公園	10	250	有	9
市博物館	5	48	有	8
ベニランド	10	550	有	7
大崎八幡神社	5	62	有	5
東照宮	5	75	有	3
輪王寺	10	40	有	2
晩翠草堂	0	0	有	2
成田山園分寺	10	150	有	
自然史博物館	0	10	有	
笹生の里	1	4	有	
青葉神社	0	30	有	
仙台駅	6	127	有	

観光客数：青葉城址を100とした指数(S.57年) 空欄不明

の駐車可能台数は極めて少ない。

主な拠点の特徴を示す。

●仙台駅前：ここは原則として団体旅客、公共性のあるバスに便宜を計っている。スペースは、大型バス6台で最大12台駐車可能で、料金は20分まで県内車 400円／1回、県外車 800円／1回となっている。1日に平均26台利用されており、増加傾向にある。利用バスは県内が60%を占めている。問題点は、駐車可能時間が20分間と短いため、新幹線客待ち合わせに余裕を取って来た場合に使用出来ないケースもあり、さらに出入庫の幅員が狭い上他車と混在しており利用しにくいと不評である。

●青葉城址：大型バス可能台数30台で、料金は県外車 800円／1H、県内車 400円／1H、昼食利用の場合は便宜を計って無料としている。又、ここは大型バスの宿泊も可能で、一泊 2,000円で夕方6.00～翌朝8.00まで夜間駐車出来る。

ここへの入り込み数のデータは直接得られなかったため、定期観光バスの昭和63年のデータから推測した。それによれば、定期観光バスは1日に約7台の出入庫あり、乗客数は1台に約30人であった。青

葉城址Pからのヒヤリングで得た一日約90台の利用数から観光客の入り込み数を計算すると、約100万人がバス利用をしていることになる。ここの駐車場の規模からみても、シーズン中の出入庫には相当な混雑があるものと想像される。

問題点としては、8/6.7.8の七夕期間中と年末年始には大型バスの乗入れが出来ない。又、最近のバスはデラックス大型化してきて出入庫の通路が狭く、不便を来している。

●霊廟瑞鳳殿：定期観光バスが2コース入っており、駐車スペースもバス6台で無料である。

問題点は、利用時間帯が制約されていることと、駐車する方法が並列式で出入庫に問題がある。又、道路もクランクが多く施設の入口付近は車道も幅員が狭く、県外車はここへの入り込みを敬遠しているとのことがヒヤリングで分かった。

(2) 観光施設以外の主な現状

b) のケースは市内の

表-2 観光施設以外の
駐車可能台数

場 所	バス	乗車	金
県庁	4	124	有
県総合運動場	10	100	有
県総合センター	20	100	有
市総体育館	10	100	有
センター	2	50	有
県美術館	4	80	有
市博物館	5	48	有
市天文台	0	0	
市科学館	0	0	
戦災復興館	0	0	
県民会館	0	12	有
市民会館	0	35	有
電力ホール	0	0	

施設の駐車スペースが少ないためと考えられるが、主な施設の駐車可能台数を調査した結果を表-2に示す。県庁は、一般にはバス駐車場を開放していない。

体育施設では一応バス駐車場もあるが、大量の選手団がバスで来る場合には不足すると思われる。市内の主なホール関係では、県民会館や市民会館の場合バス駐車場が無く普通車の台数も少ない。民間の施設ではバスの駐車場は完備していない。この様に市内中心部では大型バスの駐車場は全く無いに等しいのが現状である。

(3) 仙台市の宿泊施設の現状

その他、バスで来仙した場合の宿泊も問題となる。仙台市の宿泊施設の総数は367件である。これを旧市内と温泉地とに区分して比較した。(表-3)但し旧市内は328事業所の内39事業所をピックアップ(うち旅館が8)し、秋保・作並温泉は39事業所全部を対象とした。表は大型バス・普通車の駐車可能台数と充足率を比較したものである。

表で見るようにバス駐車スペース一台当りの定員を比較して見ると旧仙台市は約158人で温泉地(秋

表-3 旧市内と温泉地の駐車台数と定員の比較

地 区	事業所数	客室数	定員数	バスP	乗車P	バス1台当り	充足率
旧市内	39	4,849	7,447	47	1,291	158.4	45%
秋保・作並	39	1,874	9,061	364	2,705	24.9	165%
合 計	78	6,723	16,508	411	3,996	40.2	111%

※充足率 = (バス駐車可能台数 × 30人 + 自家用車可能台数 × 1.5人) / 施設定数

保・作並)の約25人とは相当の開きがある。

駐車場の充足率を見ても旧市内では約45%で温泉地の約165%に比べかなり貧弱である。

4. 路上駐車の実態とその特質

県内にはバス総台数は1,961台でその内貸切バスは492台運行している、この外に県外車が入り込み観光集中箇所は混雑していることが推定される。一時駐車をする際も県内車は地理も明るく臨機応変にバスを移動して対応できるが県外車の場合はそれが出来ない。ヒヤリングによると、駐車場が有料でもよいから利用したいし、その駐車場に食堂・トイレ等が付帯していればなお良いと言う。市内には民間大型バス専用駐車場は青葉城址P・卸町Pがあり前者は他の目的では駐車出来ないし、後者は県外車にとっては遠隔で分かりづらく不便である。郊外に有料の駐車場を完備しても道路事情が日により変わるのであまり郊外には駐車出来ない等の回答もあった。

従って青葉城址周辺地域のこの地域は車線と交通量にも余裕があり、大型バスが一時駐車出来る唯一の場所であり、他県車バスにも目にとまり、一時駐車するものと思われる。

5. まとめ

この研究から、観光バスが立ち寄る為の施設の条件は、①駐車場のスペースの余裕があること、②食事が出来ること、③トイレがあること、④道路幅員に余裕があること等である。仙台市内の観光施設でこの条件をやや満足しているのは青葉城址・市博物館・成田山程度で、その他の瑞鳳殿・大崎八幡神社は条件の一部を満足していない。他の観光施設並びに一般施設にあっては、駐車場その物が無い等、駐車場の整備の遅れが路上一時駐車の原因の根本源となっている。仙台市の場合は観光とビジネスの両面から来訪者が多く、バス駐車場の役割がますます重要視されることは必至である、今後はその定量把握に努めて行きたい。